

お知らせ

2002年1月1日から2011年12月31日までに当院で消化管間質腫瘍(GIST)の手術 を受けられた患者さんへ

今回我々は、「消化管間質腫瘍(gastrointestinal stomal tumor:GIST)診断における細胞周期プロファ
イリング技術(C2P)の臨床有用性の検討 (retrospective validation cohort 研究)」と題する多
施設での
臨床研究を行います。対象となる患者さんは、2002年1月1日から2011年12月31日ま
でに、GISTの手術を当院で受けられ、患者さんから取り出された腫瘍組織(保管検体)を
研究に使用することに
同意していただいている方です。

本研究に関する検査は、手術で取り出されたGISTの腫瘍組織を用いて行われます。術
後の病理診断が終了した後に、保管検体を使用して、GIST組織内における細胞増殖能の
関連物質の様子を検索します。その結果、GISTの術後再発予後規定因子を明らかにする
ことができます。また、研究結果は、手術後の治療方針を決める際の大切な指標となる
ことも期待されます。

この臨床研究では、患者さんの保管検体が用いられますが、その研究結果が、検討さ
せていただいた患者さん御自身の診断および治療法の選択に、新たに使われることはあ
りません。今後、GISTの治療を受ける他の患者さんの治療方針を決めるための新しい基
準になり、医療の進歩につながることを期待できます。

この研究は、当院で保管されている患者さんの検体の一部を使用させていただきます
ので、試験の科学的妥当性と倫理性を当大学及び病院の倫理委員会で慎重に審査され、
承認を受けています。全体で40名前後の患者さんのご協力をいただく予定です。

研究結果は、学会・論文での発表等に使われます。しかし、どのような場合でも患者
さんのお名前などの個人情報、共同研究機関を含め当院の外へ漏れることはなく、研
究によって患者さん個人が不利益を受けることはありません。

研究をするために必要な資金をスポンサー(製薬会社等)から提供してもらうこと
により、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を
利益相反状態といいます。この研究では学内研究費のみを使用するため、本研究に関し
て主任研究者及び分担研究者は利益相反の状態にはなりません。

本臨床研究の対象になる患者さんは、前回の同意を撤回、拒否することができます。
この臨床研究に関して、具体的な研究内容や本件に関して何かご不明な点などがありま
したら、いつでもご遠慮なく下記の研究相談窓口にご相談ください。

連絡先：・・

病 院 名 : 川崎医科大学附属病院
病院所在地 : 〒701-0192 岡山県倉敷市松島577
病院電話番号 : 086-462-1111 (内線44518)
電子メール : yamamura@med.kawasaki-m.ac.jp
主任研究者 : 川崎医科大学 臨床腫瘍学 講師 山村 真弘